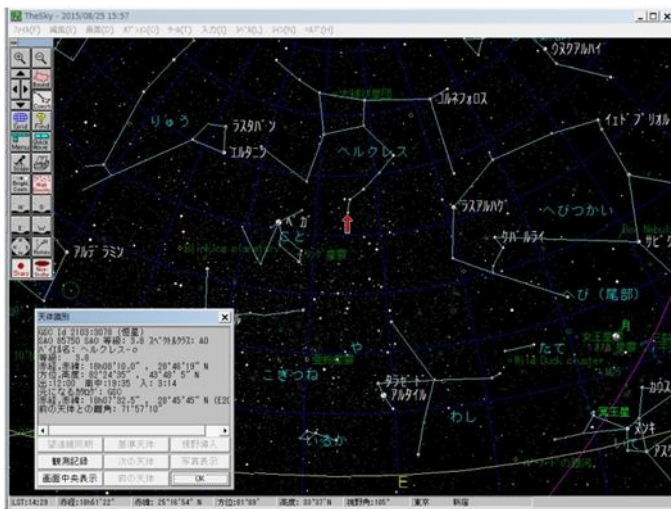


「天文ソフト “Mitaka” (1)」

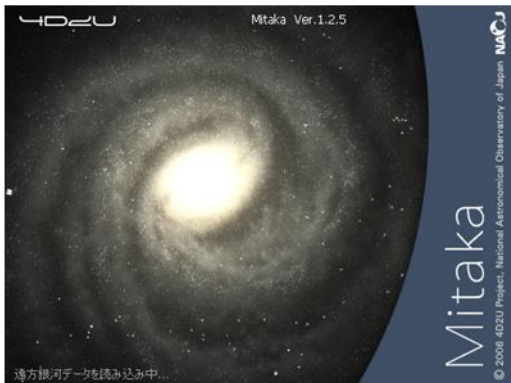
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

私は天体観測や星野(せいや)写真の撮影の前に、天文シミュレーションソフトで、あらかじめ恒星や星座の位置を確認しておく。よく使っているソフトは、「The Sky」という商品だ。Windows98時代の古いソフトなのだが、恒星のデータ量が非常に豊富で、太陽系天体の位置計算も速く正確である。彗星も軌道要素を入力すれば、位置や等級を計算してくれる。



「The Sky」の基本画面 さまざまな機能を搭載
ただし、地球上の任意の地点からの星空のみ表示可能。

その後も、「ステラ・ナビゲーター」を始め、多くのソフトが登場したが、専門的すぎて私には使いにくい。ところが、最近、国立天文台がものすごいソフトを公開していることを知った。その名も「Mitaka(三鷹)」。



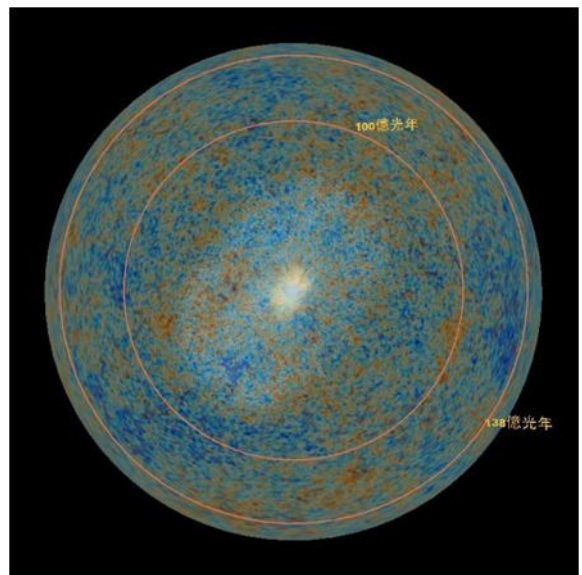
このソフトの優れた点は、以下の通りである。

- ①地上からはもちろん、宇宙の任意の場所から、あらゆる方向を、好きな縮尺で表示できる。
- ②恒星、銀河だけでなく、惑星や月の地形データも内

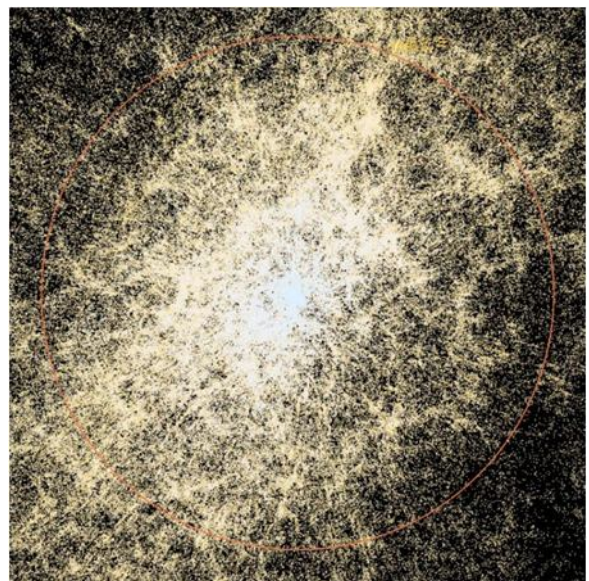
蔵し、任意に日時、任意の場所から見た、太陽系の姿を美しく表示して「撮影」できる。

- ③私のボロ Windows 7 でも、全く問題なく動く。
- ④動作が容易で、直感的に動かせる。
- ⑤完全なフリーソフトである。

私はすぐにダウンロードして、さっそく試してみた。まずは、「宇宙の果て(138億光年の彼方)」から「太陽系」までの旅行である。



①宇宙の全体像。常に地球からの距離が示されていて、わかりやすい。銀河の密度濃淡だけが見える。



②円は10億光年。銀河団の網目構造が見えてきた。一つひとつの微細な粒が、それぞれ銀河である。本当にわくわくする体験だ。(つづく)